

国内・海外の高校・大学との交流について

海外理数系授業参加プログラム

SSH部 上村礼子

1. 期間 8月2日(日)から8月15日(土)
2. 場所 南オーストラリア州アデレード市
グレンガンインターナショナルハイスクール
南オーストラリア大学・アデレード大学等
3. 参加生徒
4年生 10名(男子5名、女子5名)
参加希望者に選考課題と面接試験を実施し、参加者を決定。
4. 目的
国際社会に活躍する理数系人材を育てることをねらいとし、特に理数に高い興味・関心を抱く後期課程の生徒を対象に、本プログラムを実施する。
5. プログラムの概要
南オーストラリア州アデレード市のグレンガンハイスクールで国際バカロレアディプロマコースの理数系の授業を中心に参加。アデレード大学や南オーストラリア大学での施設見学や研究者からの講義、高度な研究に関する実験などに参加。
6. 成果と課題
(1)成果
参加生徒のアンケートによる満足度は 94.0% (昨年度 76.6%)であった。内5名は満足度 100%となっている。今回は、5月11日に南オーストラリア州教育省のアンドレア氏が小石川を訪問するという機会を得たことで、直接英文の要望書を渡し、要望する理由も含めて説明し、打ち合わせができたことで、昨年の課題になっていた6項目について全て改善することができた。要望したことは以下の6項目である。
 - ① 事前研修で生徒に指導する内容を現地の授業に合わせるために、事前にプログラム期間中に行われる授業の単元と内容の情報共有。
 - ② 授業で使うパソコン設定を初日に現地において行う時間の確保と、ICT についてのサポートをしてほしい。グレンガンの Web に入ることが出来るように生徒に ID とパスワードをそれぞれ与える。
 - ③ IB の理数系の授業を受けることが目的であるが、文系の授業や自習となる場合は、IB でない理数系の授業を受けさせてほしい。
 - ④ 授業を受けることを目的としているので、遠足は必要な

- い。
- ⑤ 8月8日(土)のサイエンスアライブへのホームステイ先からの参加。
 - ⑥ アデレード大学などでの大学の研究室での実験の参加。
授業が途中で途切れないように、アデレードに到着日に大学訪問を設定
以上の項目が全て改善されたのは、教育省の協力に加え、グレンガンの本プログラム担当のナターシャ先生が、学校全体への職員への周知と、本校の要望を受け入れるために、生徒自治会も動かしながら、昨年から大きく内容を改善し、対応して下さったことが要因となっている。
また、以下のような成果もあった。
 - ・大学での実験やサイエンスアライブの参加について
今回、初日に南オーストラリア大学のプラネタリウム、アデレード大学の植物に関する実験の参加を行った。昨年はプログラムの途中で大学訪問や、金曜日の午後にサイエンスアライブの見学が入っていた。昨年の参加生徒のアンケートでは、授業を途中で欠課することになるという回答があったが、土曜日にホームステイ先から参加することで、この点が改善された。
 - ・授業について
小石川の生徒一人に4人以上のスクールバディがついており、授業の教科は、要望どおり IB の理数系授業を優先し、一般の理数系授業も組み込まれていた。時々シネマやフィルムなどの活動や英語、中国語、フランス語などの語学や歴史が入っていることも生徒にとっては気分転換になるようであった。自習の時間がなく、宿題は自宅で行っていた。パソコンも授業だけでなく、自宅学習でも活用しており、昨年の課題は改善された。
 - ・スクールバディについて
生徒自治会を中心とした生徒が、スクールバディを自治的に決定し、本校の生徒が授業を受ける際、困ることがないように連携して、教室移動時に誘導するなどのサポートをしてくれた。スクールバディのホスピタリティやリーダーシップが、本校の生徒により刺激となり、グレンガンのリーダー会議に参加したいという生徒や自主的に朝の生徒活動に参加する本校生徒の姿もあった。